

第11回女性起業家大賞・スタートアップ部門 優秀賞

地域の高齢者の心のよりどころになりたい

株式会社福祉ネットサービス 代表取締役 西村 美也子



突然訪れた転機

創業のきっかけの一つは、義理の父が脳梗塞で倒れ、その後、植物状態になったことでした。介護は初めての経験でしたので思うようにいかないことも多く、難しさも感じていました。

そんなとき、ふと父の仕事をみて、私に必死で何かを伝えようとして、私に必死で気が付きました。言葉を発することができなくなっていました。頭の中ではいろいろなことを考え、心の中で私に語りかけてくれているのだと感じました。

このころから私は、高齢者の健康、特に脳の機能について関心を持つようになりました。そこで、介護・福祉分野の勉強を始め、自分が経験したことや知識を広く地域社会に役立てたいと思うようになったのです。

もう一つのきっかけは、平成17年に肺炎がもとで母が寝たきりになり、自宅に引き取って本格的に介護を始めたことです。24年4月に亡くなるまで胃腸とバルーンを付け、最後の1年は酸素吸入も行って行きました。

介護・看護の日々はまさに「壮

絶」でしたが、さらに知識を深めようと、17年に日本福祉大学の通信教育学部に入學。19年に卒業し、翌年、一念発起して通所介護（デイサービス）施設の「たかハウス」を立ち上げました。

また、社会福祉士の資格取得を目指し、仕事と家事をこなしながら、試験前の4カ月は1日の睡眠時間を2時間半まで削り猛勉強。21年に合格しました。

オリジナルトレーニングで脳を活性化

介護される人と介護する人、双方にとって「やさしい介護」を目指し、自立支援も含めたデイサービスの展開しています。そんな当社のサービスの特徴は、私自身が介護の経験や大学で学んだ理論を基に独自に開発した脳の活性化メニュー「脳トレ」です。具体的には、計算や音読、書写、音楽療法などをデイサービスのメニューに取り入れています。

また、栄養のバランスのとれた地産地消メニューの食事や、介護リフレクソロジーの認定を受けた職員が行う手のマッサージや手浴も好評で、「体調が良くなった」

「ぐっすり眠れるようになった」といった声をいただいています。

スタッフとは日々の業務の中で常に対話するよう心掛け、定期的な面談も行っています。その結果、全員が介護福祉士の資格を取得するなど、自己啓発にも進んで取り組んでくれるようになりました。

また、スタッフのほとんどは主婦ですので、安心して働いてほしいとの思いから、昼食におかずを提供したり、帰宅時におかずを2品ほど持って帰ってもらったりしています。

23年には、夕方から朝まで夜勤スタッフが介護するお泊りサービスの「宅老所」もスタート。同時に、命と向き合う責任と隣り合わせの仕事をしているという自覚が強くなりました。今後も「やさしい介護」を通じて、地域のお役に立ちたいと思っています。



株式会社福祉ネットサービス (佐賀市)

平成20年創業
介護事業
<http://taka-house.area9.jp/>